

海部地区里力再生計画書

「住んで良かったといえる海部」づくり

平成26年3月

久美浜海部地区活性化協議会

目 次

はじめに	・・・・・・・・ 1
1 現状と課題	・・・・・・・・ 2
2 海部地区の将来像	・・・・・・・・ 4
3 計画期間	・・・・・・・・ 5
4 実施計画	・・・・・・・・ 5
5 海部地区各区の整備計画・要望	・・・・・・・・ 9
6 資料	
資料 1 海部地区里の人づくり事業委員名簿	・・・ 12
資料 2 海部里力再生計画策定審議経過	・・・ 13
資料 3 住民アンケート	・・・ 14
資料 4 住民アンケートの結果	・・・ 18
資料 5 人口の推移	・・・ 35

はじめに

平成16年4月1日に6町合併により京丹後市が発足し、広域になったこと、また、久美浜町は大小71の集落で構成されることから、行政対応の困難さが予想されたことにより、町内各地で、旧村単位で区長会及び公民館並びに学校関係者、各種団体の委員などで構成する協議会の設立が検討され、当海部地区でも、平成17年3月に「海部地区活性化協議会」が発足しました。

発足当初は、専任の会長を選定し、各種団体等の長に委員をお願いし、複数にまたがる課題や海部地区全体に係わる課題について、そのとりまとめ及び課題解決に向けた取り組みをはじめ、「海部地区に元気を取り戻す」を合言葉として、取り組みを進めてきました。

しかし、発足から8年が経つ中、地域では少子高齢化の波が以前にもまして押し寄せており、半数近い集落が限界集落となりなりつつあり、地区のみならず各集落でも地域力が減退しており、それぞれの集落自治も困難な状況となる中、海部地区に生まれ育った私たち地域住民がお互い思いやりの気持ちを大事にし、安全に安心して暮らせる地区づくりを目指すことが重要な課題となっています。

この計画は、平成24年度に実施した海部地区区民アンケートの結果を基本に、今後の地区の方向性を描いたものです。

本計画作成に当たり、京都府及び京丹後市のお力添えや、多くの方から貴重な意見・提言をいただき、計画を作り上げることができました。

これからは、計画したことを少しでも実行できるよう、地域住民が一丸となり、「住んで良かった・今後も住んでいきたい」と言えるような、地域づくりを進めていきたいと考えています。

今後、この計画を海部地区の皆さんが自分のものとし、活動の主人公として具体化に向けた取り組みに協力いただくことを期待し、計画策定にあたっての挨拶とします。

平成26年3月

海部地区活性化協議会

I 現状と課題

海部地区は、久美浜町の中央に位置し、橋爪区、海士区、油池区、西橋爪区、坂井区、友重区、品田区、新谷区、谷区、芦原区、島区の11区で構成され、325世帯、1,127人の地域である。この内、油池区、坂井区、友重区、品田区、新谷区、谷区、芦原区、島区は65歳以上の人口割合が30%を越え、中でも友重区、品田区、新谷区、芦原区の4地区は、65歳以上の人口割合が40%を超えている。当地域の人口は、昭和30年約2,200人余りあったが、現在は1,127人と半減しており、同時進行する少子高齢化ともあいまって地域力減退の状況にある。

また、当地区は、地区面積8.80km²で久美浜町の約6%を占め、内農地が1.16km²の典型的な農村地域であり、国道312号沿線の集落でありながら、その立地条件を上手に活用できていません。

当地区の経済状況については、地域の基幹産業である農業においても、生き残りをかけて営農組織や株式会社等取組を進めているが、厳しい状況に変わりはなく、新たな地域経済循環による雇用創出や安定した収入確保の仕組みの構築が急がれる。また、農地の基盤整備も完了し、水稻や畑作の中核農家が育ってきているが、農家戸数は減少傾向にあり、高齢化も進み、離農や耕作放棄、農地の遊休化など地域農業の危機が現れ始めている。さらに、有害鳥獣による農産物の被害も深刻化しています。

当地区のコミュニティー活動は、自治活動を中心に、消防・防災活動、福祉・安心・安全活動、社会体育・教育活動も行なわれているが、青年層人口の減少や少子化等によって担い手不足もでています。

また、平成25年には市立高龍中学校が、平成26年には、市立海部小学校が閉校となるなど、PTAはもちろんのこと区長会、消防団、公民館など公の機関の連携の在り方や、地域の子供たちをいかにして守り育てていくか等、課題が山積となっており、個々で完結している活動を、地域全体のものとするための取組が重要となっています。

そこで海部地区の活性化協議会を始めさまざまなグループ、組織・団体がネットワーク化した組織をつくり、暮らし、産業、環境、観光、交流、防災、安心・安全な福祉ネットワークなどを一から見直すと共に、地域の課題や地域資源を探し出し、課題解決と合わせて地域資源の有効活用を図る海部地区の将来像を描き、その再生計画を実践することで地域の活性化を図るためのさまざまな取り組みが求められています。

その課題解決のため、できるだけ多くの先進事例に学び、より良い方策をとらなければならないと考えています。

《それぞれの分野における現状と課題》

(1) 生活基盤の充実

平成24年のアンケート結果によれば、25%の人が住み心地の不便さを持ち、約50%の人が後継者問題で困っています。また、約60%の方が将来の農地の維持に不安を持つなど、子供や孫たちが住まなくても仕方がないとあきらめの意見が約半数にも上っており、働く場の問題や生活をするための基盤が築けないために、現状を受け入れざるを得ないということだと思われまます。

すべての区で、谷地田の一部を除いて圃場の基盤整備も完了して、機械化による農業経営が可能な中、水田では稲作のみでなく、ハウスを利用した水菜などの栽培や黒大豆の栽培にも団地化を図り積極的に取り組まれています。遊休農地が増えつつある状況のなかで、後継者の育成や農業に吹く風に乗って新たな就農者の発掘も含め、早急な対策が求められます。

さらに、各集落内では維持しきれなくなりつつある地域営農を、集落間を超えて地区全体を網羅する組織の育成と新規構築のための検討をしたいと考えています。

また、働く場の確保については、海部地区だけの力では及ばないことですが、京丹後市に企業誘致などを働きかけていく必要があります。

交通の便の悪い場所への若者定住は困難といわれていますが、区内道路の整備をはじめ川上谷川の早期改修や上下水道の整備などライフラインの整備も安全・安心な地域づくりには、必要不可欠の要素として多くの方から求められています。

(2) 地域福祉の充実

区の皆さんが求める地域像は、子供から高齢者まで、区民全員が安全に安心して生活できる地域づくりが突出して高く、健康増進や環境美化を通して楽しく過ごせる地域となっています。この時、頼りとすべきは家族・親戚となりますが、地域のかかわりが必要となってきます。

今やすべての集落において、高齢者世帯や高齢者独居の問題が深刻となっています。介護保険制度の充実により一定部分、安全・安心の体制は整えられたものの、すべての方が安心して過ごせる、居場所確保や買い物サービス等、きめ細やかなサービスを展開する必要があります。

昔から当たり前のこととして行われてきた、隣近所への気配りや目配りをもう一度考え、意識的に行うことが求められています。

また、現在海部小学校の児童を対象とした、「海部子ども土曜お楽しみ

会」が開催されていますが、平成26年4月の小学校統廃合による再構築が求められており、地域の子育て支援の充実が必要となっています。

各集落、地域を単位とした、子育て・高齢者福祉のための「場」の充実など、家に閉じこもることのない工夫も大切にしていきたいと考えています。

(3) 教育・文化の継承と発展

海部の人たちが、誇りを持って自慢できるものに、人間性の良さや豊かな自然があります。

これは、先人たちにより実践されてきた、集落自治や公民館活動の実践によるところが大きいと思われます。住民が等しく役割を分担し、みんなで村づくりを進める営みが根付いてきたからだと考えています。合わせて、少なくなったとはいえ、各種のお講、更には春祭りに見られる郷土芸能など、地域の文化が果たしてきた役割は大きなものがあります。

また、海部地区には昔から、保育所・小学校・中学校・高等学校があり、教育の地域として知られています。昨年三月には、高龍中学校が、今年三月には海部小学校が姿を消しますが、新たに地区内に「高龍小学校」が開校いたします。

日々の生活に追われて、社会活動への参加が困難になり、集落・地域を挙げての取り組みが出来にくくなっていますが、今こそ、昔から営まれてきた伝統や郷土芸能をもう一度見直し、地域の元気を取り戻すことが必要だと思っています。

子供からお年寄りまで、生き生きと安心して楽しく暮らせる地域であることは、みんなの願いです。みんなが、それぞれの立場で少しずつ力をだし、地域の教育力を高め、文化を継承していくことが、願いを実現させる最も有効な手段だと言えらると思います。

II 海部地区の将来像

☆ 『住んで良かったといえる海部』

安全安心に暮らせる地域づくりを、人任せでなく自分が出せる力を出し合い支え合って活動する中で、心豊かに暮らせる地域づくりを進めます。

III 計画期間

☆ 平成25年度から34年度までの10年間

この計画の期間は、平成26年度から10年間とし、計画の実現を目指

します。ただし、この計画にかかわらず区民の要求の変化にも柔軟に対応し、必要に応じ見直すこととします。

IV 実施計画

(1) 生活基盤の充実

①区内道路の整備

地区内は、国道や府道の幹線道路が走っており、一定の道路整備は実施されているが、狭隘な幅員や側溝整備などまだまだ十分とは言えません。また、区内を網羅する市道も問題点が多く、少子高齢化の進む海部地区にあって一日も早く、安心して安全に通学、走行できる道路整備や河川改修の促進に努めます。

- ・ 府道町分久美浜線の早期整備
- ・ 国道312号の歩道等の整備
- ・ 芦原甲山線の整備
- ・ 地区内市道の整備
- ・ 川上谷川の早期改修整備

②水田基盤の維持の検討

全ての集落で完了した再圃場整備も今後経年劣化による、農道のいたみ、パイプラインの損傷などが次々と発生しています。農業施設の維持管理は今後一層問題となるため、それらの解消に向けた整備を検討する必要があると思われます。

- ・ 農業施設の維持管理の検討

③上下水道の整備促進

当地区は、下水道計画の見直しにより、小型合併浄化槽処理による整備地区となりましたが、その普及率が低迷しています。

これらの事業がより迅速に施工されるよう働きかける必要があります。

④防災意識の高揚

「災害は、忘れたころにやって来る」と言われますが、丹後大震災から90年近くたち、近いうちに起こることが予測されている大地震、近年特に大きな被害をもたらす風水害に常に関心を持ち、たゆまぬ自主訓練と点検は欠かすことの出来ない日常の心構えと言えます。

更には各区で対応が迫られると考えられる初期対策組織の設置についても早急に考えられる必要があります。

- ・定期的な避難訓練の開催
- ・災害発生時の対応資材の点検
- ・避難困難者の把握と対応マニュアルの作成
- ・土砂災害危険区域の定期点検
- ・海部及び海部の防災組織の確立

⑤海部地区を地域とする営農組織の検討

年々離農者が増加する中、今のところ、個人や集落内営農での耕作が可能な状況ではありますが、今後ますます全耕地の管理が困難になりつつあります。多くの費用をかけて再圃場整備も完了しましたが、耕作者不足のため荒廃しようとしています。これは、集落・地域の衰退に拍車をかけることとなります。

農地の適正管理は、自然体系を守り災害防止にもつながります。

先を見据え、個々の農家で耕すところと組織（集落・広域）で実施するところの住み分けを行い耕作の健全化を検討・研究する必要があります。

- ・機械の共有化・共同化等の検討
- ・既存もしくは新たな、海部営農組合の設立

⑥海部の特産品づくり

海部で生産されている農作物を中心に、調査・検討を図り、少ない労力で事業化可能なものについて、特産品づくりを目指します。

- ・農産加工も含め農産物の特産化
- ・販路の確保と販売所
- ・流通の研究
- ・新たな農産物の研究
- ・地産池消を目指した朝市の拡充検討

⑦有害獣対策

京丹後市では、年間1億円を超える有害獣被害が発生していますが、このことは農業収入減だけでなく、農業生産者の意欲をそぐ大きな問題になっています。手間ひまかけて育てた農産物が、確実に収穫できるように、あらゆる手段を講じる必要が有ります。

- ・有効なワイヤメッシュ等の布設
- ・里山の手入れ
- ・狩猟免許所有者の養成

(2) 地域福祉の充実

①住民相互の見守り、助け合いシステムの構築

かつて、どの地域にも「結」や「手間がえ」があり、人手のかかる農作業は、お互いが手間を替えあって乗り切ってきました。ほとんど機械化された農業では、そのような習慣はなくなり、住民が相互に助け合ったり見守ったりすると言うことが出来にくくなっています。さらに隣近所の係わりも希薄になっています。

高齢者世帯や独居世帯の増加の中で、日常の生活の中に意識して相互に助け合うシステムを各区で構築する必要が有ります。

同時に高齢になっても、地域の役に立っていることを実感できる場所を意識的に創出します。

- ・声かけ、挨拶運動の推進
- ・地域で見守る体制づくり
- ・各区でのサロン開催
- ・緊急通報装置の十分な配備

②外出支援

海部には、市営のバスが走っていますが、高齢者でバス停まで行くことが困難な人達を対象とする通院及び買い物等の外出を支援するためのシステムを構築する必要が有ります。

- ・通院、買い物などの支援システムの構築の検討

③高齢者の交流

福祉施設の利用等により、地域に残る高齢者同士の交流は出来にくくなっています。孤独をなくし、充実した日々を過ごすために気楽に集える場所の提供は必須です。

広域では、農業センターの利用もありますが、まず各区ごとのサロンなどの充実をします。

- ・サロン運営の検討
- ・各区の公民館の整備充実
- ・健康増進教室の開催
- ・グラウンドゴルフ支援

④子育て支援

少子化に伴い兄弟も少なくなっています。子どもは、兄弟や地域、学校の仲間と共に育ち切磋琢磨されますが、今やこのことが出来にくくなっています。

合わせて核家族や共働き等の理由によって、子育てに不安を持つ親も増えています。安心して子育てができるよう、子育てについて学びあえる機会づくり、「あまべっこ見守り隊」「海部子ども土曜お楽しみ会」の充実等子育て支援を図ります。

- ・子育てサロンの検討
- ・あまべっこ見守り隊の充実

- ・海部子ども土曜お楽しみ会の再構築（学校統廃合による）
- ・各集落公園の遊具整備

（3）教育・文化の継承と発展

①公民館活動の充実

住み良い地域づくりを目指して、区民自らの参加による生涯学習、健康増進、交流の場づくりに取り組んでいますが、一層の充実発展が期待されています。

あわせて、区民のニーズにこたえるための取組みを検討いたします。

- ・新たなスポーツ教室の検討
- ・地域一体となったイベント開催
- ・福祉分野と共同の教室・講座の開催
- ・地域の財産である、海部小学校跡地・施設の有効活用の検討
- ・あまべの里ふれあいまつりの充実

②伝統、郷土芸能の継承

海部地区には、多くの神社や伝統があります。これらの継承は、大変なエネルギーを要する作業です。しかし、これらの作業を通じてふる里の良さが実感され、人と人との横のつながりがしっかりと出来ているように思います。

その大切な『宝』を、集落や地域でその継承の在り方を検討し、守り継ぐ必要が有ると考えています。

- ・郷土芸能の発掘
- ・伝統継承への集落間相互支援
- ・現行イベントの充実発展
- ・祭祀、講の実態調査

V 海部地区各区の整備計画・要望

(海部地区)

- ① 道 路
 - ・ 府道芦原甲山線改良整備
 - ・ 府道芦原永留線改良整備

- ② 水路 (河川)
 - ・ 幹線排水路整備 (K T R 南側)
 - ・ 宝谷川浚渫整備
 - ・ 府河川改修整備の早期着手

- ③ その他
 - ・ 防犯灯整備
 - ・ 交通安全施設の整備 (信号等)

(橋 爪)

- ① 道 路
 - ・ 市道の拡幅整備 (公民館下～矢須田)

- ② 河川 (水路)
 - ・ 水路の暗渠化 (矢須田奥周回道路側溝)
 - ・ 幹線下水路の改修 (橋爪～海士)
 - ・ 堆積土砂除去 (区内水路)

- ③ その他
 - ・ 未舗装市道補修用碎石支給
 - ・ 地下式消火栓の立ち上げ
 - ・ 防犯灯設置

(海 士)

- ① 道 路
 - ・ 市道舗装及び拡幅整備 (区内)
 - ・ 林道側溝整備

- ② 水 路
 - ・ 暗渠の拡幅整備
 - ・ 排水路のグレーチング整備

- ③ その他
 - ・ ゴミステーションの更新
 - ・ 消火ホース格納箱更新

(油 池)

- ① 道 路
 - ・ 区内道補修用碎石支給

- ・区内道整備（全線）
 - ② 水路（河川）
 - ・堤防鉄止め壁の整備
 - ③ その他
 - ・急傾斜地崩壊防止整備
 - ・意布伎城跡整備
 - ・地区公民館改修整備
- (坂 井)
- ① 道 路
 - ・市道舗装整備
 - ・区内道補修用砕石支給
 - ② 水 路
 - ・農業用水路整備
 - ・生活排水路整備
 - ③ その他
 - ・古墳説明版設置
 - ・ゴミステーションの更新
- (友 重)
- ① 道 路
 - ・市道舗装整備
 - ・区内道補修用砕石支給
 - ② 水路（河川）
 - ・水路の暗渠整備
 - ③ その他
 - ・ゴミステーションの更新
 - ・地区公民館改修整備
- (品 田)
- ① 道 路
 - ・市道舗装整備
 - ・市道側溝整備
 - ③ その他
 - ・防犯灯整備（LED化）
- (新 谷)
- ① 道 路
 - ・市道舗装整備
 - ・区内道補修用砕石支給

- ② 水路 ・排水用暗渠整備
- ③ その他 ・交通安全施設整備（カーブミラー）
・電気柵設置

（ 谷 ）

- ① 道路 ・区内道舗装整備
- ② 水路 ・農業用水路改修整備
・宅地横
- ③ その他 ・有害獣駆除対策
・防犯灯設置

（ 芦 原 ）

- ① 道路 ・府道バイパス道整備
- ② 水路（河川） ・府河川拡幅整備（永留川）
・橋梁整備
・堤防整備
- ③ その他 ・消火栓ホースの更新
・カーブミラー新設整備
・地区公民館改修整備

（ 島 ）

- ① 道路 ・市道拡幅整備
・市道舗装整備
・区内道補修用碎石支給
- ③ その他 ・防犯灯新設
・消火栓移設
・バス待合所の設置